

---

# バカとDクラスの努力っ娘

らうでいー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

バカとDクラスの努力っ娘

### 【Nコード】

N5407Z

### 【作者名】

らっでいー

### 【あらすじ】

植物を愛していて、何事にも努力を怠らない少女、「千草すみれ」は、その努力が裏目に出て実力を発揮できずDクラスに所属してしまう。すみれがDクラス代表の平賀や百合っ娘清水、そして明久の天敵玉野達と送る、スクールライフが始まります。

## 第1問（前書き）

初めましてらうでいーです。

これが初投稿です。これから頑張っていこうと思っています。

コラボというものに憧れているので、それが出来る境地に至るまで成長したいと思っています！

感想を書いていただけると嬉しいです。

## 第1問

(うう、頭が痛いです)

振り分け試験当日、筆を走らせる音が響く教室で一人の少女、千草すみれは机に顔を伏せていた。

(失敗です。徹夜なんてしなければ良かったです)

なんとかして顔を上げるが、頭痛のせいでまるで頭が働かない。

(取り敢えず、あまり考えなくても解けそうな問題だけでもやらな  
いと)

頭を抑えながらできる限り筆を動かすが、10分くらいするとまた顔を伏せてしまう。

それを何度も繰り返し、ようやく最後のテストの終わりを告げるチャイムが教室内に鳴り響き、

(チャイムが頭に響きますうー!!)

すみれは強烈な頭痛で意識を持っていかれそうになるが、なんとか耐えるとフラつく足取りで教室を出て行った。

振り分け試験の数日後、校舎へと続く坂道の両脇に咲き誇ってい

る桜の木の下で、 すみれは優しい手つきで木を撫でながら何か呟いている。

「桜さん。 今年も綺麗ですね。」

学校に登校してきている他の生徒達は、 そんなすみれの姿を見て微笑みを浮かべている。 一部の生徒は鼻の下を伸ばしながら彼女のある一部分を凝視しているが。  
そんな良い意味で目立っているであろうすみれに、 声をかける一人の生徒が。

「すみれちゃん、 おはようございます。」

「あ、 美穂ちゃんおはようございます。」

すみれは挨拶をしながら美穂と呼ばれた少女に抱きつき、 抱きつかれた美穂は苦笑いを浮かべながら頭を撫で、

「すみれちゃん、 桜とのお話もいいですが、 そろそろクラス発表を見に行きましょう。」

「はい。」

歩き出すためにすみれは美穂から離れ、手を繋いで欲しいと催促するように伸ばした小さな手を、 美穂は優しく握る。

その光景はまるで姉妹のようで、 実際にすみれは精神的にも肉体的にも（一部を除いて）幼いので、 家が近所で幼馴染の美穂が姉のように面倒を見てきたのだ。

二人は桜の並木道を少し歩くと、

「おはよう、 千草、佐藤」

浅黒い肌に鍛えるかれた筋肉がスーツ越しにでも分かる、プロレスラーと言われても疑われない男、

「おはようございます、 西村先生」

文月学園の補習の鬼、 生活指導担当の鉄人こと西村宗一教諭が立っていた。

「佐藤、 よく頑張ったな」

そう言いながら箱から二通の封筒を取り出し、 片方を美穂に手渡す。

美穂は受け取った封筒の上の部分を丁寧に破いていき、 中の紙を取り出す。

「美穂ちゃん私にも見せて」

「はいはい」

美穂のクラスを見ようと小さな体でびよんびよんと飛び跳ねるすみのために、 美穂は膝を屈めて紙を開ける。

『佐藤美穂………Aクラス』

「Aクラス！ 美穂ちゃんすごい！！」

「ありがとうございます。すみれちゃんも私より頭いいんですから、きつとAクラスになってますよ」

「え、 えーと、 それは……………」

Aクラスになれて満面の笑みを浮かべている美穂から気まずそうに顔をそらす。

「残念だったな千草。 先生達もこの結果に驚いて親御さんに電話で聞いたよ。 体調管理はしっかりせんとな」

「あう……………」

西村教諭は持っていたもう一つの封筒を、 顔を伏せているすみれに手渡し、

「お前の成績なら徹夜さえしなかったらAクラス確實だったのにな」

「あ、 西村先生！ それを言っちゃだー」

「……………すみれちゃん？」

「はいいい!?!」

「あれ程……………徹夜はダメって言ったのに」

「う、 うめんなひゃい!」

すみれが美穂の前で一番言っただけ欲しくなかったことをポロリとこぼしてしまい、 美穂は完全に表情を消し、 すみれは両手で頬を引っ張られながら泣きそうな顔で謝る。

「はぁー、 まあ終わったことは仕方ないですし、 早く封筒を開けてください」

「う、 うん」

引っ張られた頬に痛みを感じながら、 封筒を開け、 中身を取り出し、 自分のクラスを確認する。

『千草すみれ・・・・・・Dクラス』

「・・・美穂ちゃん、 どう反応したらいいのかな？」

「・・・取り敢えず、 Fクラスではなくて良かったですね」

「・・・うん」



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5407z/>

---

バカとDクラスの努力っ娘

2011年12月18日04時45分発行